

特殊な水. アルファ水・オメガ水の諸効能

満塩大洗*・三浦恭造**

*高知大学理学部地学教室 **アルファ・オメガ商会

SEVERAL EFFECTS OF SPECIAL CHARACTERS OF α -WATER and ω -WATER

Taikou H. MITUSIO* and Kyozeu MIURA**

*Department of Geology, Faculty of Science, Kochi University

**Alpha & Omega Corporation, Fukuoka

Abstract

The several special characters of α -water and ω -water, that are invented from some natural materials, were clarified. Those are minor chemical components, solubility of some solute, ^{17}O -NMR, concrete strength by JIS method, growth of some vegetables, curative values of some disease by MRA, checkup of some tastes, and etc.

Consequently, the results obtained were so peculiar that only a few additions of α -water and ω -water made such materials as city water, tea, coffee, sugar, salt, vinegar mild and that they also made noodles and bread tasty. And vegetables grew up earlier within a month adding a few amounts of these waters, and the symptoms of such diseases as livers and atopy were improved as MRA value showed +21. In addition, the concrete with ω -water became stronger by about 10 kgf/cm². These cause owing to the small cluster structure of ^{17}O -NMR value.

1. はじめに

筆者らはこれまでに開発してきた、特殊な水であるアルファ水・オメガ水の諸性質について解明してきた¹⁻³⁾。ここではこれらの総括と共に、「多次元エネルギー、Multi-Dimension Energy, DE」と「岩石や水などの持つ物質のエネルギー強度、Energy Intensity, EI」⁴⁾、及び、磁気共鳴分析器Magnetic Resonance Analyzer, MRA⁵⁻⁸⁾で測定した結果との関係を明らかにするものである。

2. 方法

2-1. 化学成分

α -waterと ω -waterに含まれる微量成分の検出のために、セイコーインストルメントの発光プラズマ分析機SPS-7000Aを使用した。測定元素はNa・K・Mg・Ca・Al・Si・Feの7種類である。

2-2. 溶質の溶解度変化

それぞれの溶質の溶解量の変化を調べるために、上記の機器を使用して、 SiO_2 の無水とゲル、及び、 Fe と $\text{Fe}_2\text{O}_3 \cdot \text{Ca}(\text{OH})_2$ を室温で、150時間後の溶解量を求めた。更に、 90°C で水熱処理した場合の120時間経過後の溶解量も求めた。

2-3. ^{17}O -NMR値

^{17}O -NMR値の測定は、栗田工業中央研究所で行われた。

2-4. コンクリートの強度変化

α -waterと ω -waterを添加した場合のコンクリート強度変化について、高知県中央地区生コンクリート協同組合の中央試験所において、JIS規格に従って行った。

2-5. 植物の成長効果

トマトについては、高知県香美郡香北町の近藤牧場において、露地栽培によって比較した。また、南国市の徳弘鉄工所西の田圃において、露地栽培により、小松菜・ホーレン草・大根などを、 α -waterと ω -waterをそれぞれ添加した水道水をかけて試験した。

2-6. 多次元エネルギーDE・EIとMRAとの比較

多次元エネルギーの強度DEと物質エネルギーの強度EIは、ルドルフ・シュタイナーが指摘する「超感覚器官」によるものであり、これらは通常の感覚の5感と「考えたり、感じたりする」第6感とを「超えた」と言う意味であり、いわば第7感とも言えるものである⁴⁾。いっぽう、MRA⁵⁻⁸⁾はオーリングテストと同様に、かなり一般性を持って測定されている。ここでは島村不二夫氏の測定によるものである。

3. 結果及び考察

3-1. 化学成分

α -waterと ω -waterに含まれる微量化学成分としては、Tab. 1の結果が得られた。

Tab. 1. Minor elements contained in each water (unit= $\text{X}10^{-3}\text{mg/ml}$)
(Mitusio, 1992)

No	water	Na	K	Mg	Ca	Al	Si	Fe
1	α -water	0	0.01	0	0	0	0	0
2	ω -water	0	0	0.01	0.02	0.01	0	0
3	distilled water	0	0	0	0	0	0.38	0
4	π -water	0.1	0.67	1.91	13.4	0.07	3.46	0

この表から明らかなように、 α -waterや ω -waterには、 π -waterや蒸留水と比較しても殆ど何も含まれていない。

3-2. 溶解量の変化

α -waterと ω -waterをそれぞれ添加した場合の、それぞれの溶質の溶解量の変化としては、Tab. 2の結果が得られた。

Tab. 2. Solved concentrations of each solvee (unit= $\times 10^{-3}$ mg/ml) (Mitusio, 1992)

No	water	SiO ₂	SiO ₂ gel	Fe	Fe ₂ O ₃	Ca(OH) ₂	Ca(OH) ₂ at 90°C
1	α -water	2.4	35.6	1.2	0.4	4854.3	4555.6
2	ω -water	10.6	47.5	4.4	0.6	3758.6	4417.9
3	distilled water	4.8	30.0	2.7	0.4	5102.4	4325.6
4	π -water	11.7	89.5	2.3	2.2	3518.2	4278.1

表2から明らかなように、無水ケイ酸・ケイ酸ゲルや純鉄・赤鉄鉱などは、 α -waterの方が ω -waterよりは溶解量が少ないが、常温や水熱処理した水酸化カルシウムは α -waterの方がより多く溶解した。

3-3. ¹⁷O-NMR値

アルファ水・オメガ水の¹⁷O-NMR値としては、Tab. 3の結果が得られた。

Tab. 3. ¹⁷O-NMR value of α -water and ω -water

(Unit=Hz) (Mitusio, 1993)

No	water sample	value
1	ω -water	54.22
2	α -water	153.87

上の表から明らかなように、 ω -waterの¹⁷OのNMR値の半価幅は54.22ヘルツとなり、満塩(1993)の述べた各種の水のNMR値の中で、嶋西(1992)のロック水と超純水との混合の53ヘルツ³⁾について、2番目に小さい値を示している²⁾。 α -waterはポリ容器保存のために153.87と大きいですが、食物の味をまろやかにできるのは ω -waterと相違はない。

3-4. コンクリートの強度変化

α -waterと ω -water、及び、両者の混合水を添加した場合のコンクリート強度変化としては、Tab. 4の結果が得られた。

Tab. 4. Concrete strength with additions of α -water and ω -water
(Unit= k g f / c m^2) (Mitusio, 1994)

No	addition of each water sample	avg. strength after one week	avg. strength after four weeks
1	α -water	1 8 4	3 1 1
2	ω -water	1 8 8	3 2 5
3	α - & ω -waters mixed	1 8 7	3 1 9
4	no addition	1 8 7	3 1 5

上の表のように、 ω -waterは4種類の添加の中で、圧縮強度の平均値は最も大きく、他と比較して、約 10 k g f / c m^2 ほど大きい。これも $^{17}\text{O-NMR}$ 値の半価幅が小さい小クラスター構造をとるからであろう。

3-5. 植物の成長効果他

これは定量的には取り扱っていないが、トマトの結果では1993年の冷夏の際に、近藤法文氏が近藤牧場で露地栽培したものは、 α -waterを添加したものが、 ω -water及び両者の混合水と普通の井戸水とそれぞれ比較したら、他の3割程度にも良く成長した。また、徳弘信喜氏が露地栽培した野菜類では、約1月内では α -water水添加物は他のものより早く成長したが、1月を過ぎればそれ程の差異はなくなった。今後は定量的に扱う必要がある。また、これらの特殊な水をごく少量でも添加すれば、水道水や砂糖・塩・醤油・ウドン・パンなどの味がまろやかになることも確かめているし、更に、肝臓・膵臓・アトピー性皮膚炎や二日酔いなどが緩和された。今後の詳細な医学的検討が望まれる。

3-6. 各水のDE・EIとMRAの比較

3-6-1. 原液の性質

各原液のDEとEIの強度、及び、MRAの5項目の性質との対比については、Tab. 5-1の結果が得られた。

Tab. 5-1. Characters of original α -water and ω -water

	DE	EI	immunity	stress	cancer	balance	diabetes
α -water	+ 7	+ 1 0	+ 2 1	+ 2 1	+ 2 1	- 2 1	+ 2 1
ω -water	+ 6	+ 1 0	+ 2 1	+ 2 1	+ 2 1	- 2 1	+ 2 1

DE, Dimension Energy EI, Energy Intensity

上の表からみて、 α -water原液のDEは、宇宙エネルギーの入った7次元水であり、 ω -waterは地球エネルギーの入った6次元水であるが、EIの強度は両者とも+10の最高値を示している。また、5項目のMRA測定値では、免疫・ストレス・ガン・糖尿病ともに、両者は最高値の+21を示したが、陰陽のバランスは-21を示した。

3-6-2. 希釈した α -waterの性質

これについてはTab. 5-2の結果が得られた。ただし、糖尿については測定していない

Tab. 5-2. Characters of diluted α -water

	DE	EI	immunity	stress	cancer	balance
original	+7	+10	+21	+21	+21	-21
1/1000	+7	+8	+21	+21	+21	-21
1/1万	+7	+6	+21	+21	+21	-13
1/10万	+4	+4	+18	+15	+21	-4
1/100万	+2	+2	+11	+7	+12	-1

DE, Dimension Energy EI, Energy Intensity

α -waterの希釈については、DEは1万倍に希釈しても変わらないが、10万倍希釈では+4になり、100万倍希釈では+2となる。EIは希釈が進むにつれて直線的に減少するが、10万倍希釈でもそのエネルギーを検知できる。また、免疫・ストレス・ガンについては1万倍にまで希釈しても+21で変わらず、10万倍希釈ではガン以外は低下する。陰陽のバランスは1万倍希釈から低下する。これらの結果から、 α -waterは10万倍にまで希釈しても有効である。

3-6-3. 希釈した ω -waterの性質

これについてはTab. 5-3の結果が得られた。

表から明らかなように、 ω -waterの希釈についても、DEは1万倍に希釈しても変わらないが、10万倍希釈では+4になり、100万倍希釈では+2となる。EIも希釈度につれて直線的に減少するが、10万倍希釈でもそのエネルギーを検知できる。また、免疫・ストレス・ガンについても α -waterと同様に、1万倍にまで希釈しても+21で変わらず、10万倍希釈ではガン以外は低下する。陰陽のバランスは1万倍希釈から低下する。これらの結果から、 ω -waterもは10万倍にまで希釈しても有効であるのは、 α -waterと同様である。

Tab. 5-3. Characters of diluted ω -water

	DE	EI	immunity	stress	cancer	balance
original	6	+10	+21	+21	+21	-21
1/1000	6	+8	+21	+21	+21	-21
1/1万	6	+6	+21	+21	+21	-13
1/10万	4	+4	+18	+15	+21	-3
1/100万	2	+2	+6	0	+9	+6

DE, Dimension Energy EI, Energy Intensity

4. おわりに

以上には、アルファ水・オメガ水のいろいろな性質の一端について述べたが、その他には、人体の健康の改善にも有力である。さらに、今後もデータを積み重ねて、地球環境や人類の健康改善に役たてたいと考えている。

謝辞

本報告をなすにあたり、多岐にわたってご協力いただいている人間・環境変動研究会の安保雄次会長をはじめとする会員の諸氏に深謝の意を表します。更に、MRA値を測定いただいた島村不二夫氏や野菜類の生育試験に協力いただいた近藤牧場の近藤法文氏・徳弘鉄鋼所の徳弘信喜氏にも重ねて感謝します。

引用文献

- 1) 満塩大洗. 1992. 岩石圏と水圏の相互作用, その7, 各種の特殊な水の性質. ウェイストリソース, (26):2-9.
- 2) 満塩大洗. 1993. 岩石圏と水圏の相互作用, その9, 特殊な水, α ウォーターと ω ウォーターの ^{17}O -NMR. ウェイストリソース, (28):20-26.
- 3) 満塩大洗. 1994. 岩石圏と水圏の相互作用, その10, 特殊な水, α ウォーターと ω ウォーター-添加によるコンクリート強度変化. ウェイストリソース, (29):29-36.
- 4) 満塩大洗. 1995. 多次元科学への招待, I. 1-38.
- 5) 江本 勝. 1992. 共鳴磁場水の概略とその応用. 新しい水の科学と利用技術, 208-213.
- 6) 江本 勝. 1992. 波動時代への序幕. 1-208.
- 7) 江本 勝. 1995. 波動革命. 1-240.
- 8) 萩原弘道. 1993. 免疫力を上げる生活. 1-314.
- 9) 嶋西浅男. 1992. ロックスウォーター. 新しい水の科学と利用技術, 234-242.